

(別添1)

令和3年度老人保健健康増進等事業

テクノロジーを活用した効率的な人員配置体制に関する調査研究事業

株式会社三菱総合研究所

◆目的

令和3年度介護報酬改定に関する審議報告において、テクノロジーの活用による①見守り機器等を導入した場合の夜勤職員配置加算の見直し、②見守り機器等を導入した場合の夜間における人員配置基準の緩和、③テクノロジーの活用によるサービスの質の向上や業務効率化の推進等が見直しがなされた。

一方で、テクノロジーを活用した場合の人員基準の緩和等による施行後の状況について把握・検証することとされている。

本事業では、テクノロジーを活用して効率的な人員配置を行う介護施設等における、ケアの質の維持・向上や職員の負担軽減に資する先進的な取組について詳細把握を行い、テクノロジー活用によるケアの質や職員の負担への影響を整理し、取りまとめることを目的とした。

◆事業内容

・検討委員会

学識者・有識者・関係団体等から構成する会議体を設置し、介護施設等における、介護ロボットをはじめとしたテクノロジーを活用に関する検討を行った。

・アンケート調査

介護ロボットを導入して、効率的な人員配置等がなされていると想定される介護施設

・事業所に対し、郵送でアンケート調査を行った。

・ヒアリング調査

アンケート調査により、テクノロジー活用を通じて令和3年度の介護報酬改定に関連した人員配置をしている施設・事業所（6施設・事業所）に対してヒアリング調査を行い、具体的な内容を把握した。

◆結果の概要

テクノロジーを活用して効率的な人員配置を行う介護施設等における、ケアの質の維持・向上や職員の負担軽減に資する先進的な取組について詳細把握を行い、テクノロジー活用によるケアの質や職員の負担への影響を整理し、取りまとめることができた。

本調査研究の成果として、見守り機器をはじめとした介護ロボット導入を通じたオペレーション変更、例えば訪室の優先順位を判断する等を通じてケアの質の向上をはじめとした効果を生み出している施設がみられた。また、様々なケアのシーンにおいて介護ロボットを活用し、ケアの質の向上や職員の業務負担軽減等につながられているケースが見いだされた。

以上